令和7年度 霧島市食育推進検討委員会 会議要旨

開催日時	令和7年8月6日(水) 14時00分～15時30分		
開催場所	国分シビックセンター別館 中会議室		
出席委員	澤委員、千葉委員、川野委員、上村委員、外山委員、松下委員、増田委員、隈元委員、伊地知委員、田中委員		
事務局	<p>【健康増進課】 鮫島課長、赤水主幹兼健康づくり推進グループ長、徳重主査、窪田主事、酒井主事補</p> <p>【すこやか保健センター】 上小園所長、木原地域保健第2グループ長</p> <p>【学校給食課】 塩川主幹兼学校給食管理グループ長</p> <p>【農政畜産課】 淵ノ上主幹兼農政第1グループ長、田中主事</p>		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
<p>議事</p> <p>(1) 健康きりしま21(第4次)計画(第4章)について 分野別の具体的な取組 【健康づくり分野】 栄養・食生活改善と食育推進(食育推進計画)</p> <p>(2) その他</p>			
<p>協議結果等の概要 議：議長 委：委員 事：事務局</p> <p>(1) 健康きりしま21(第4次)計画(第4章)について 分野別の具体的な取組 【健康づくり分野】 栄養・食生活改善と食育推進(食育推進計画) ⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見、説明は以下のとおり。</p> <p>【健康きりしま21(第4次)進捗状況について・各課の取組状況について】</p> <p>委： 資料全体のことと個別目標のことについて、意見が3点ある。 資料について、資料に掲載されている進捗状況や課題、各課の取組は、個別目標ごとに書いた方が分かりやすいと思う。目標値達成のために効果的に行われている事例などもあったようなので、写真等を入れて、この目標のために実施しているというような紹介があると、参加している委員等の活動の参考になると思う。国の食育白書なども参考に、見て分かる資料づくりをお願いしたい。アンケート結果なども何人にとった結果なのかという基本的な情報の記載もお願いしたい。朝食を誰かと食べる子供の割合については、現状値が分からないとのことだったが、実情がわかるようなアンケートを小規模でも取っていただきたい。</p> <p>個別目標1について、朝食を食べる子供の割合が全く改善されていないということで、目標値を100%にしていることも改善しなければいけないと思うが、市だけではなく様々な団体等への活動を広げる働きかけが必要で、これに関する活動ができるような具体的な支援や助成をお願いしたい。</p> <p>個別目標3について、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を継承している若い世代の割合で、分からないという項目が非常に高いので、アンケートの仕方にも工夫をと昨年度の会でお願いをしている。今回はその工夫をした上での結果なのか、気になるところである。</p>			

質問は2点ある。1点目は、朝食の欠食率を下げる取組について、具体的にどのように強化するのか。2点目は、食文化の継承のアンケートの取組について、昨年度以降、改善があったのか。

事： 朝食の欠食率を下げる取組では、保育所等に向けての食育教室の実施や、児童・生徒に向けて早寝・早起き・朝ご飯についてのデータ配信を予定しており、その取組から保育所等や学校等との連携を深めて、啓発をしていきたい。

食文化の継承の取組では、イベントや出前教室等で郷土料理や作法の普及を行っていく。食文化継承のアンケートは、農林水産省が実施している食育に関する意識調査の調査票を参考にして、令和7年度は変更している。農林水産省の調査票では「分からない」という選択肢はなく、「受け継いでいる」「受け継いでいない」の2択の選択肢のため、令和7年度のアンケートから2択の選択肢にしている。令和6年度は従来の設問でとっていたため、「受け継いでいる」「受け継いでいない」「分からない」という3項目の選択肢である。

資料については、昨年度、個別目標と取組がリンクするような形での記載の要望があったが、各課の取組で個別目標が重なる部分の取組もあり、今回は、個別目標の1、2、3で取組のあるところに丸を付ける形で整理をした。アンケートのグラフの記載では、経年の比較図が多く、回答者何人という形で書くと、図が見えづらくなる場所もあり、今回はこのような形の資料にさせていただいた。

委： アンケートの結果については、今年度のものだけでも人数を掲載した方が、それが50人に対してなのか500人に対してなのかで随分印象が変わってくる。基本的な情報なので記載をお願いしたい。

食文化の継承のアンケートのとり方については、農林水産省の調査に合わせるということで、今期以降大きく変わってくると思う。

委： 健康増進課がすこやか保健センターと連携して、SNSに時短レシピ等を食育の日の19日に配信しているということだったが、フォロワーが少なく、情報が届いていないと思う。安心メールや広報誌等、市が使っている媒体でインスタの紹介やQRコードの掲載、他にも小児科に貼るなど、広がるような工夫をしないといけないと思う。それがどういう媒体でインスタだけなのか、他のところで共有しているのか知りたい。

また、学校教育課で肥満度35%以上の児童（小学1・3・6年生）に、生活習慣病予防の健診を公費負担で実施とあるが、就学前からはできないのかと思う。就学時前健診と連動してのアプローチはないのか知りたい。

事： すこやか保健センターのインスタのフォロワー数が、現在512人と少なく、いろいろなところで周知する必要がある。SNSでの食育の発信を今年度始めたばかりのため、検討しながらやっていきたい。

就学前の肥満に対する生活習慣病予防健診はしていない。

委： 肥満の子ども達も2型糖尿病が増えているので、3歳児健診後のフォローや就学時前健診と連動した取組等をお願いしたい。

議： 学校教育課等も連携していくことで周知の幅は広がると思う。

委： 高齢者の低栄養傾向では、BMI20以下というデータが出ているが、児童の低栄養化を確認できるデータはあるのか聞きたい。

事： 学校教育課の管轄になるため、把握ができていない。

委： 主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる割合で、子育て世代の食べていない割合が多いので、いわゆる栄養失調に近い子どももいないわけではないと想像できる。そこにも注目していただきたい。

委： 低年齢の子どものBMIはでていないのではないか。

委： BMIだけではなく、低栄養傾向を示すようなデータはないかの質問だった。

委： 今私達がいろいろ取り組んでいるのは、20歳代ぐらいの一番活発に動く人たちのことは対象になっていない。国の平均でいくと、BMI 18.5以下の20歳代の女性が4分の1ぐらいいる。元気な赤ちゃんを産めるような体を作らないといけないので、そこを入れられるようなところがあれば、ぜひそうしてもらいたい。

事： 国の次期食育推進基本計画では、大人の朝食の欠食、栄養バランス、やせ、逆に肥満といった問題を受けて、大人の食育の必要性を言われているので、若い世代に対しての食育、特に働きかけができていない大学生や職場に対しての食育というところにも今後連携を図っていきたい。

議： 国の調査では、BMI 18以下の女性の割合が4分の1ぐらいあるということで、本市でもそのような調査を行うことで、データ化して啓発・改善を図っていくという、提言に対してはどうか。

事： 事務局では特定健診のデータを活用していることが多く、そのデータは40歳以上を対象としており、若い世代のデータは持っていない。健康きりしま21の策定時での調査のデータ把握になる。

委： 私が仕事の依頼をいただく時は、小・中学校の児童・生徒向けの依頼や、企業の職場の20歳代・30歳代向けのセミナーの依頼もある。やせと肥満の二極化、低出生体重児という問題もあるので、全体を含めた体重コントロールと主食・主菜・副菜を食べることも伝えている。

議： 早寝・早起き・朝ごはんについての意見、工夫、提言等ないか。

委： 中学校で仕事をしていた時に、親が朝食を作れないのであれば、子どもが自分で作ればいいということで、夏休みに子ども達を集めて、何回か朝食作りをしたら、親も作るようになったという結果がある。働きかけの方法を、親だけに目を向けなくて、子どもでも作れるように働きかけを変えるというのもいいと思う。

委： 子ども達が自分で自分の食べるものを作るという経験が、地域行事の縮小やコロナ禍において、学校の調理実習の時間が少なくなっていることで、極端に減っているという実感がある。お手元の冊子は、子どもが自分で料理を作る方法を、動画をつけて子ども食堂を利用する子ども達に無料で配布したものである。ご飯を研ぐ、味噌汁を作る、手を洗う、まな板を消毒する、食器の洗い方、調味料の冷蔵庫へのしまい方等を教えている。

子ども達が調理に関わることで、自分で自分の命を守ることができる。それから自分で、この食育推進計画の中にもある食と農という部分において、地元の食材を選ぶことで、たくさんの経験をすることができるので、様々な方法でそれぞれの団体ができることをする必要はある。子どもへの働きかけや体験の提供は、非常に経費がかかるため、市から支援や助成ができるのであれば、活動は確実に広がると思う。

議： 飽食の時代と言われている中で、子ども達が生きるために、どうやって料理を、もしくは食材を活用しながら、生きていくという気持ちが薄れていたり、安心安全過ぎたり、食に関して感じる場所があると思う。何か取り組める、もしくは周知啓発等ができる場所があれば、各課連携しながら進めていければと感じた。

委： それぞれの立場を超えて、意見交換のできる場があれば、現場の声が出てきたり、そこから発展する働きかけの仕方が出てきたりして、力を合わせて取り組めて、もっと良くなるのではと思った。

当保育園で朝食のアンケートをとると、食べない子は少ないが、朝食の内容が菓子パンだったりする。幼稚園・保育園でも成長曲線から極端に外れたケースもあるので、低年齢からの取組を自分たちのできる場所で取り組めたらと思う。それに付随して、5歳児健診の実施に向けて、肥満対策等も前向きに検討して早めの取組をしていただきたい。

委： 子ども食堂で朝ご飯を提供しているのを見たりしたが、霧島市のどんなところでどのような子ども食堂が行われているのか、霧島市で把握してまとめて発信すれば、朝食の摂取率が少し改善したり、食べたことで家でこうしようと、子ども達から保護者に繋がったりするのではないかと思うので、子ども食堂についての情報収集や周知をしていただけたらと思う。

事： 子ども食堂については県のホームページで、県に登録している子ども食堂の情報がアップされている。霧島市には10か所ある。子ども食堂の周知については今後、検討していきたい。

【各団体の食育の取組状況について】

委：(霧島市学校保健会代表)年に1回程度、各学校で栄養教諭を講師として、栄養のバランス、心と体の成長のために必要とされる食全般に関することを学級単位で行っている状況である。給食センターの栄養教諭が、児童・生徒と一緒に給食を食べるという取組をしている学校もあり、会食をしながら、子ども達の実態をより正確に詳しく把握できるという利点もある。また、給食準備の際の衛生チェック、教室で衛生管理を担う職員との連携を行っている。

委：(始良地区歯科医師会霧島支部代表)団体としての食の取組は進んでいないが、個人的に児童の低栄養状態を何とかしてあげたいという思いがあるので、何かそういった取組ができたらいと思っている。

委：(NPO法人霧島食育研究会)今年度は主催事業を約90回予定している。メイン事業の第20回霧島食の文化祭を12月7日に霧島公民館で開催する。テーマを今年が昭和100年で、霧島100年の食として、これまで収集してきた家庭料理から、食の文化歴史と次世代に繋がるような食文化の継承活動をしていきたい。また、霧島食べ物伝承塾や鹿児島郷土料理マイスター講座のような食文化継承活動、さらに霧島の畑や田んぼを教室に

した霧島里山自然学校など、さらに、文化庁の委託で鹿児島の次世代に向けた食文化継承プロジェクトを実施する。

委：(霧島市食生活改善推進員連絡協議会) 乳幼児から高齢者を対象に、食を通しての健康の啓発活動を進めている。主な活動としては、乳幼児健診の離乳食の展示、国分小学校3年生への豆腐づくり教室の実施、会員それぞれが持っている公民館教室、男性料理教室等で食の大切さを啓発している。また、今年度から市の出前講座で郷土料理講座を開始している。

委：(霧島市保育協議会代表) 野菜づくり等の食農体験を通しての学びや、各園の栄養士が食育の話をしている。健康増進課の食育教室を利用している園もある。毎日給食が基本となっているので、食事マナーや食事のバランスを子ども達の食事状況を見ながら取り組んでいる。特に、離乳期から就学前の子ども達までおり、保護者と連携をして取り組んでいる。

委：(鹿児島県食育アドバイザー) 令和6年度から、知識の習得から技術の習得を重視した取組に変えている。知識は自分で知ろうと思えば身につけることができるが、その技術を習得するのは1人ではなかなか難しい。先人の知恵があったり、家族から引き継がれる知恵があったりするので、そういうことを教えていきたいと思っている。時間がかからずおいしい料理と言われる方が多いので、なるべくそれに沿った形で、でも栄養のことはしっかり話している。

委：(株式会社グリーンハウス) 京セラ国分工場の社員食堂に在籍しており、企業の方でも健康経営的な視点で取組をしているので、それに合わせて働く世代の生活習慣予防対策として、食堂でも健康メニューというテーマを設けて提供している。旬の食材を使用した季節メニュー、減塩メニュー、野菜たっぷりメニューといった食事の提供や、健康情報ポップの掲示などでの情報配信やセミナー等をしている。今月末も情報提供と機器測定、バランスのよい食事を合わせたイベントを、健康増進課に協力をもらい実施する予定である。今、取組としてはないが、霧島市以外の給食センターで、夏休みに親子料理教室や厨房探検ツアーの実施という実績があるため、霧島市の方でも実施をしていけたらと思っている。

委：(霧島NEO-FARMERS) 新規就農者の団体としての活動はできていないが、メンバー各々が、市民農園をしていたり、有機栽培や慣行栽培をしていたり、料理教室をしていたり、飲食店とコラボしたり、農政畜産課と連携して、霧島ガストロノミーや試食会に協力したりしている。最近、有機栽培を求める方が多いが、急激な気温の変化や自然現象があり、農薬を使用しないと作物ができないということも理解していただきたい。物産館で野菜を購入して、身近なこととして考えていただけたらと思う。農家の間では、誰と何をどこで食べるかを目標にして、食卓の楽しさやおいしさをどう伝えていくか、今後、発信できたらと思う。

委：(鹿児島県栄養士会代表) 胎児から高齢者までの全世代に応じて、依頼を受けて話や料理教室をしている。市の目標に沿って、健康増進課と連携したり、資料を使用させてもらったりしている。栄養士会員は、病院や施設、保育所等にもいるため、その方々とも連携をしながら、各世代に応じた食支援ができたらと思っている。すこやか保健センタ

一でも乳幼児健診や特定健診後の保健指導にも栄養士会員が携わっているので、食育をすすめていきたい。

委：(霧島市PTA連絡協議会) 霧島市PTA連絡協議会としての取組はないので、小学校や給食センターの取組を報告すると、地域の食材や有機野菜を積極的に取り入れていたり、給食だよりに生産者の紹介があったり、栄養教諭と一緒に給食を食べたり、食育の授業があったりと食育に力を入れていると感じる取組をされていた。子どもが通っている高校のお弁当について、お野菜が入ったお弁当が週に1回でも販売されるように、地域の方に声をかけて学校とつなげるという活動を個人的にしている。2歳の子どもが企業型保育園に通っており、アプリで連絡帳がきて、毎日写真で食事内容が送られてくる。視覚的に食べた量が分かり、献立の参考にもなるので、すごくありがたい。時間的に難しい面はあるかと思うが、いろいろな媒体を利用して、子どもが何を食べているかを見られる取組を学校給食でもできたら、もっと深まると思う。

(2) その他
⇒特になし

会議資料

【配布資料】
○令和7年度食育推進検討委員会資料